

中国人留学生の日本語力の実態と問題点

— 物語の叙述に着目して —

濱 畑 静 香*

〈要旨〉本稿は、筆者の所属先の中国人編入留学生の日本語力の現状について、日本語口頭運用能力を、特に叙述から質的に考察したものである。日本語理解が不十分な編入留学生に対して、大学や教員が行うべき課題は多く残されている。そこで、課題の解決の糸口を探るために日本語口頭運用能力テストを実施した。日本語口頭運用能力を測るものの一つに ACTFL-OPI (Oral Proficiency Interview) テストがある。被験者へのインタビューテストを実施したところ、来日から約1年後であっても、大半の被験者は中級レベルであった。上級レベルの判定材料の一つである叙述・描写で十分な量と質を保つのは難易度が高い。日本語能力試験N2に合格しているとはいえ、日本語母語話者が困難なく理解できるような正確さや文章構成力に欠けており、十分に聞き手に内容が伝わっているとは断言できないことがわかった。考察は主に構成、接続表現、語彙・文法の観点から行った。

改善策として、まず、構成においては、登場人物の情報を先に述べ、登場人物の姿や背景を頭に思い描くことができた段階で、話の展開を時系列で述べていくとわかりやすいため、それらが定着するように繰り返し練習する内容を日本語授業に取り入れる必要がある。また、接続表現においては、順序や総括の機能の接続表現の使用を積極的に用いるように話させることが一つの点である。自身で話したものを録音して、日本語教員と共に聞き直すなどして、自分

の話す日本語を意識的に聞くことで、間違いにも気づき、より自然な日本語力を身に付けたいと学習を頑張る動機付けにもなる。さらに、語彙においては、漢字の誤字脱字だけでなく、読み方の正確さも求められる。社会的問題について意見を述べる際に、抽象的な語彙も必要となってくるので、適宜使えるように語彙のレベルも上げていくとよいと思われる。

来日後すぐに学部授業を受ける編入留学生は授業時に発表する機会がほどなくやってくる。彼らの日本語の4技能を総合的に向上させる必要であるのは当然であるが、まずは授業で必要となる日本語での叙述方法や話し方などを学ぶ機会を作ることも必要であろう。

〈キーワード〉 叙述、OPI、留学生、構成

1. はじめに

近年、日本を訪れる外国人の増加と共に、日本語を学ぶ外国人も増加している。文化庁の日本国内の日本語教育の実態調査の結果によると、平成29年11月1日現在、日本国内での日本語学習者数は239,597人で、平成23年度から年々学習者数は増加しており、平成30年度もさらに増加すると予測される。国内における日本語学習者のうち、留学生は151,003人で、全体の63.0%を占めており、その中の約40%の58,418人が大学等機関に在籍している。

筆者の所属する大学には中国からの編入留学生が在籍している¹。彼らは母国にて日本語能力試験N2に合格しており、日常会話には問題がないレベルである。しかし、N1の「聞く」の認定の目安にて、「幅広い場面において自然なスピードの、まとまりのある会話やニュース、講義を聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係や内容の論理構成などを詳細に理解したり、要旨を把握したりすることができる」とあり、N2レベルで来日直後すぐに学部授業の聴講は大変である。授業理解のため、または日本語力向上のために、本学では編入

* 皇學館大学 助教, 日本語学・日本語教育

1 河南大学及び河南師範大学と本学は協定校であるため、2018年8月現在は文学部2学科にて毎年3年次への編入留学生を受け入れている。ダブルディグリー制度を取っている。

留学生に対する日本語教育の別科やコースを特設しているわけではない。唯一、2016年から筆者が担当している「日本語表現」（学部1年生向け）の授業で編入留学生対象のクラスを設けているが、春学期の15週分のみである。授業では主に文章表現力の育成に特化しているため、口頭運用能力に関しては授業時の発言時の誤用等を指摘する程度しかない。日本語理解が不十分な編入留学生に対して教員が、または大学がどのような対応を行えるのか、行うべきであるのか、検討すべき課題は多く残されている。課題の解決の糸口を探るために日本語口頭運用能力テストを実施し、分析・考察することにした。

本稿では、本学の編入留学生の日本語運用能力、特に口頭運用能力に着目し、その中でも物語のあらすじ等を叙述する発話について考察する。どのような点が不足または充足しているのか、実態を確認し、内容説明する際に必要な能力の向上に必要な方策についても述べたい。

2. 日本語口頭運用能力の測定試験について

日本語口頭運用能力を測る試験の一つとして、ACTFL-OPIがある。ACTFLはアメリカ外国語教育協会（The American Council on the Teaching of Foreign Languages）の略称で、外国語教育の学会である。ACTFL-OPI（Oral Proficiency Interview）とは、ACTFLが開発した「外国語学習者の会話のタスク達成能力を、一般的な能力基準を参照しながら対面のインタビュー方式で判定するテスト」（牧野他2001:9）であり、現在は英語のみならず、多様な言語によるOPIが開発され、日本では主に日本語教育において活用されている。レベルには初級、中級、上級、超級の主要レベルがあり、初級から上級にはそれぞれ3つの下位レベルがあり、上、中、下に細分される²。約30分以内のインタビューにおいて、テスター³がレベルを見極め、総合的にどのレベルかを判定するのである。上級レベルの話者の特徴の一つとして、「主な時

2 超級の上に卓越級が設けられているが、OPIテスター資格者が実際に判定するのは超級までであるので、卓越級についてはここでは特に取り上げないこととする。

3 テスターになるには、4日間の試験官養成ワークショップを受講し、その後所定のいくつかの審査過程を経なければならない。最終的に合格と認められればテスターとして4年間資格を得らえる。その後、4年ごとに資格更新となるが、その際も審査に合格しなければならない。

制の枠組みで、アспектもうまくコントロールしながら、叙述したり描写したりできる」⁴ ことが挙げられていることから、叙述・描写がOPIにおいてレベル判定をする際のポイントの一つであり、これらが遂行できることが上級と中級の違いを決める要素の一つとして捉えられていることがわかる。

3. 調査概要

調査対象者は、2017年9月に本学へ編入した留学生8名である。全員が中国人（女性7名、男性1名）で、来日時には日本語能力試験N2を取得済みである。来日後、約9か月から10か月ほど経過した2018年6月から7月の間にOPIを実施した⁵。被験者へのインタビューテストを実施したところ、来日から約1年後であっても、大半の被験者は中級レベルであった。上級レベルの判定材料の一つである叙述・描写で十分な量と質を保つのは難易度が高い。日本語能力試験N2に合格しているとはいえ、日本語母語話者が困難なく理解できるような正確さや構成力に欠けており、十分に聞き手に内容が伝わっているとは断言できないことがわかった。

調査資料は、筆者が実施した会話インタビュー（OPI）を行ったものの中で、叙述に関する部分（映画やドラマ、本やゲームのあらすじ）を取り出し、文字化したものである。齊藤（2001）は叙述の種類をスケジュール、道順、手順（仕事の進め方、料理の作り方などを説明しているもの）、物語（本や映画の内容を説明しているもの）、来歴（来日理由や就職理由を説明する一環として現れているもの）の5分類し、その中で分析の際に各レベルの発話資料が得られることや、まとまった長さの談話が得られるという理由で、物語を調査対象としている。筆者は、時系列に沿いながら、まとまりのある長さの発話が必要とされるものという理由で、物語を分析対象にした。物語に関する叙述部分の被験者の発話を、構成、接続表現、語彙・文法の3点に着目し、質的に分析および考察した。

4 『ACTFL-OPI 試験官養成マニュアル（1999年改訂版）』 p.20による。

5 これまでの編入留学生についても、筆者はインタビューを実施している。おおむね来日後8か月～10か月経過した同時期に実施している。

4. 調査結果及び考察

まずは、本学の編入留学生の会話運用能力のレベルについてである。判定はテスター資格を有する筆者が行った⁶。上級が1名、中級が7名であった⁷。

<表1 被験者情報>

	性別	判定レベル		性別	判定レベル		性別	判定レベル
C1	女性	中級 - 上	C4	男性	中級 - 上	C7	女性	中級 - 上
C2	女性	中級 - 上	C5	女性	中級 - 中	C8	女性	上級 - 下
C3	女性	中級 - 中	C6	女性	中級 - 上			

4. 1 構成

内容説明において十分な内容が言えていない者が多かった。8人の内容説明の始まり方を見てみると、主に以下のタイプに分けられる。

- ① 登場人物や時代背景など、概要から話し始めるタイプ
- ② あらすじから話し始めるタイプ（①・②の概要なし）
- ③ 自分の経験から話し始めるタイプ

①ができていれば、初聞きの内容であっても理解はしやすく、主人公に関する情報が充実していれば、他の情報がなくても比較的わかりやすいであろう。②では頭の中で登場人物の関係性を構築できていないままなので、理解するのに時間を要するか、しっかりと内容説明をしないと理解できないままになってしまう。まず、①のタイプとして、うまく出来ていたのがC8であった。以下にその一部を示す。

例1) 被験者C8の内容説明

T 私それ見てないので（はい）、どんな話なのかちょっと詳しく教え

6 本来であれば、テスター有資格者2名以上で判定を行うべきであるが、今回は非公式的なものでもあり、筆者一人での判定とした。小島・山中・後藤（2017）にあるように、判定のずれの可能性は否めないが、今回の研究は判定レベルに焦点を当てるものではない。よって、目安として判定レベルを捉えてもらいたい。また、判定レベルは叙述部分だけでなく、総合的に判定したものである。

7 今回の調査の2年前から、同時期に中国人編入留学生に対しOPIテストを任意で行っている。

てくれますか？

- C8 はい、あの一、それはアメリカの映画で、あの一、主人公は、うーん、もう30歳になって、あの一、うーん、ある島に住んでいて、でも、その島はホントの島ではなくて（はい）、スタジオの一部です（ほ一）。その人はその主人公はトゥルーマンという人です（はい）。男の子です（はい）。その人は生まれてから、ずっと、あの一カメラで撮られています。隠しドラマで撮られています。彼は自分がホントの世界でホントの島に住んでいると思いますけど、実はそれはスタジオの一部です。空とか、あの一、風とか太陽とか全部作ったものです。あの一、それはユートピアというか、あの一、すべてはあの一、彼を中心として回しています。【省略】⁸

叙述の順序として、制作国→主人公の情報（年齢・住所・名前・性別）→主人公の現状（人生をカメラによって撮影中）・内容説明となっている。最初に制作国と主人公の情報を提示した時点で、その人物像を頭の中で思い描くことができる。また、この映画がどこを舞台としているのかも、主人公の情報のところで先に提示しており、これが映画の根本となることを示唆している。そのあと、置かれている場所の詳細へ続き、その後の主人公の感情やそれによる新しい行動に触れ、結末へと進めている。聞き手が全くストーリーを知らない場合は、このようにいきなり主人公の動作や物語の動向を語り始めるのではなく、まずは人物像を構築するうえで必要な情報を提供するのが望ましい。

同様に、主人公の情報から話を始めていた被験者がいたが、例1とは異なり、主人公の情報が十分に提供されているものではなかった。

例2) 被験者 C5の内容説明

- T その、夏目漱石の「坊ちゃん」って有名な作品だと思うんですけど、あの私あまりちょっと詳しくないので、どんな話なのかちょっと教えてもらえませんか？

8 文字化部分の下線は考察の際のポイントとなるため、筆者が引いた。括弧は相槌などである。以後の例も同様。

C5 はい、ある教師はあつい教師です。

T あつい教師？

C5 はい。あつい教師です。あの、えー、田舎のある学校に、えー教師の、教師として働いているんです。そして、社会の、あの、教員の間とか、学生と教員の間とか、そのいろいろなこらいめ、こらいめ。

T こらいめって何ですか？

C5 あれ、あの、学生が教師に対したいたったらとか、教師と教師の間の、教師と教師の間の、命令、名誉とか、＜しばらく沈黙＞ 教師と教師と教師の間の、他の人陥る傾向が強いです、教師と教師の間で。

T それから？

C5 はい、それから最後は別に最後は完全に、完全な結局にならないですが、主人公もこの田舎で教員として続けているんです。（略）

例2からわかるように、唐突に教師と言い出し、教師が主人公であることは想像することはできるが、年齢、性別などがわからないため、人物像が作りにくい。その後、場所が田舎であることが提示されたのはよかったが、十分な内容展開もないまま、田舎で教員を続けているというだけで終わっている。主人公の人物像や、主人公と他の登場人物との関係性、内容の展開などに触れることがなかったために、結局「教師のお話」というだけで終わってしまっている。これでは内容を伝えられていない。

③のタイプに関しては、次のように話し出していた。

例3) 被験者 C2の内容説明

T あー、それはちょっと私よく知らないんですけど、それはどんなストーリーだったか覚えていますか？

C2 はい（はい）。これも私、初めて日本で見た最初の映画です。映画館に行って見た第一発【いちはつ】、初体験、日本の映画館の初体験【しょたいけん】でした（はい）。

この主人公のクラスメートは、うーん、イケメンな高校生で、でも彼が頭がいいけど、勉強は努力したくないタイプですけど、あの、成績がいいです。【省略】

ストーリーを話す前に、自身とその映画との関係について述べている。これは筆者が求めている情報ではないが、もし話したいのであれば、映画の内容を一通り説明し終えてから補足説明として話す程度で十分だと思われる。相手が必要としない個人的な情報を提供することで、相手の興味をそぐこともある。

4. 2 接続表現

OPIの評価基準の中には「総合的タスク／機能」「場面と話題」「正確さ」「テキストの型」といったものがある。OPIは通常30分以内で行うが、実際日本語教員が学習者と話をしている中で、大体どれくらいのレベルなのかは判断がつく。どこを基に判断をしているかということ、先に挙げた4つの中でならば最もわかりやすいのが発話の量だろう。OPIでいうならば、「テキストの型」である。山内（2005）においても、レベル判定のコツとして「テキストの型」を手軽に判定する基準として提案している。OPIにおいて、初級は「単語と句」でしか話すことができず、中級は「文」で、上級は「段落」で、超級は「複段落」で話すことができるという指標を示している。

ここで、中級と上級の違いであるが、発話量が多く、文を長く話していれば「段落」とみなし、上級レベルと判断してよいのかということ、決してそうではない。発話内容にまとまりがあること、また、山内（2005:48）で述べている「結束性」があるかどうかポイントになる。結束性を持たせるための友好的な手段の一つが接続表現である。吉岡（2017:28）で接続詞について「『どういう風に読まなければならないか』が表示されるので心構えができる」ものとし、接続詞を「道路標識」と例えている。吉岡（2017）は文章における接続詞について述べているが、自然発話の中でも同様のことが言える。接続表現を用いることで、前後の文の関係性を提示し、後ろにどのような流れを作っていくのか想像をさせることで、より理解がしやすくなる。気をつけたいのが、文章

でもそうだが、接続表現を用いない方がより自然で分かりやすい場合もある。ただし、「段落」でまとまった話をするのであれば、やはりいずれかの接続表現の使用は避けられない。

本研究の調査資料の中で、接続表現に注目すると、接続表現の種類が少ないことが浮き彫りとなった。先の例2の被験者C5の発話を見ても、「それから」と「が」しか用いられていない。また、次の例4においても、ほぼ同様のことが言える。

例4) 被験者C4の内容説明

T 最近読んだ本でどんな本ですか？

C4 あの一、ある一

T ああそうね、内容教えてくださいね。

T ある作家はあの一、20、20世紀、20年代に日本に留学したことがあります（はい）。彼は、あの、この自分の経験に基づいて、あの一、あの時、あの一中華民国の人の心理的な、心理的な、心理的なことを比較、かえた、かえたの、かえたの小説（かえたの小説？）、はい、かえたの小説を読みました。

T あ、心理学、ごめんなさい、もう一度、心理学的なものをかえたの小説ですか？

C4 あの、心理的な変化を（変化を、あ一、はい）事実に基づいて。

T ああ、そうですか、で、ちょっともう少し詳しく教えてください。それがどうなる、どういう話の展開になりますか？

C4 あの一、このあの小説の主人公は、あの日本に留学しました。あの、その時、中華民国はまだあの一とても弱い国です。この人は日本でたくさんの差別を受けました。ですから、彼の心理は段々あの一不安定な状態です。最後はあの一何もしながら、し、しないで、何もしないであの一、帰国しました。たくさんのあの一時間とか、あの一お金とかあの一浪費しました。

C4は話の概要を話し始めたため、内容を詳しく述べるようテスター側が発

話を促したのだが、内容も深まったものとはいえ、いきなり物語の最後に話が飛んでいる状態である。ここで用いられたのは「ですから」と、「～ながら」「～ないで」などの表現、「その時」「最後は」も展開の指標となるとするならば、これらも含めて極少数である。短い文の中で比較的さまざまな種類を使っているほうであるが、一文が短く、中級の文作成レベルと判断せざるを得ないだろう。

ここで、まとまった発話量を述べているC6の発話を見ることにする。

例5) 被験者C6の内容説明

T 私そのドラマ、ちょっとわからないので、どんなストーリーだったか教えてもらえませんか？

C6 なんか彼は演じたのは、彼はそのなんかすごく古い町にいて、その町を守る人の家に行って、ずっとその、あの昔から彼の家にはこの村を守る力を持っています。彼はその家に行きます。女の主人公はもっともすごくきれいで、あのー×××しで、もともと住んでました。でも、女の主人公は家族のせいで、なんかふるさとに帰らなければならぬので、一応ふるさとに帰って、男性の、男の主人公のところに行ってきました。そのところで、二人はなんか恋の心、なんかなんか目覚め、しました（はい）。でも、女の主人公結構きれいなので、周りの人になんか、悪い心、彼女を手に入れようと考えてました。そして、その男の主人公は、あの彼女を守ろうとして、殺人するところだったそうですね。結構、なんか二人最後でもなんか一緒になれなかったので、結構刺激的な……。

T 守ろうとして、それで終わってしまったんですか、途中で？

C6 守ろうとして、あのなんか、あの別の男の子は（中略）それをやろうとう、そのとき彼はすごい大きな棒を持って、その人の首をあの掴んだり、棒を持ってなぐる、なぐったりするのは、〔省略〕。

C6は自身が見たドラマのストーリーを語っているが、量は十分あるものの、状況説明が不十分である。接続表現に注目してみると、いわゆる接続詞として

は「でも」「そして」のみで、その他は「結局」や、接続助詞の「～ので」や、「～と」「～たら」、て形接続などで繋がれていた。接続詞「でも」の使い方を見てみると、一つ目の「でも」以外は、「でも」で繋ぐ必要性がないものであった。適切な接続表現の選択力も必要とされる。

接続表現を多用する必要はないが、まとまりのある内容を話す際には、いくらかの種類接続表現を用いることが有効的である。小森・三井（2016）ではレポートや論文でよく使われる接続詞・接続表現として11種類21表現を提示している。書き言葉の場合であるため、話し言葉とは当然使用状況が異なるわけであるが、9種類19表現が文を接続するもの、2種類3表現が複数の文を接続するものである⁹。

小森・三井（2016）は中上級から上級日本語学習者を対象とした教材であるため、被験者である本学の留学生のレベルともほぼ合致する。このような表現を適宜使用できれば、より文の結束性や展開もよいものとなる。

4. 3 語彙・文法

ここでは主に誤用を見ていく。話の展開も不十分で概要だけ述べている。

例6) 被験者 C3の内容説明

T 聞いたんですけど、あれってどんなストーリーなのか、ちょっと詳しく教えてくださいませんか？

C3 はい。まず、昼顔の意味、この言葉は女性の行動に関する造語？、平日昼顔妻が由来になっており（はい）、貞淑？、貞淑な妻である陰【いん】で？（いんで？）、いん、いん、見えないところで（見えないところ、はいはいはい）、見えないところで、うーん、これは何ていうか、不倫をする。

T ああ、見えないところで不倫をする。あー、そうですか。

C3 女性と不倫をするという、社会現象、ていうストーリーです。

9 小森・三井（2016:96）で挙げられているのは「つまり／すなわち」「または／あるいは」「また／さらに」「一方／それに対して」「しかし／だが」「ただし／もっとも」「そこで」「なぜなら／それは／その理由は」「そのため／その結果」「したがって／以上のことから」「このように」である。

「貞淑な妻」「不倫」というキーワードが言えているのはよいことであるが、「陰で」というのが「かげ」と読むのがわからず、音読みで「いん」と発音していた。インタビュー後、この被験者に尋ねたところ、このドラマのあらすじについて日本語でどういうのか調べたことがあったようである。そのときに調べた記憶が生きていたが、漢字の読みまできちんと調べていなかったことが露呈した結果となった。とはいえ、テスターが「いんで？」と意味が不明であることを伝えたことで、「見えないところで」と言い換えられていた。

語彙の言い換えが的確にできないままだったのが、先に提示した例2の被験者C5である。「あつい教師」はおそらく「熱い」教師だと思うが、人情が「厚い」教師かもしれないし、「暑がり」の教師かもしれない。その説明ができておらず、さらに「こらいめ」という語彙を使っている。例6の場合と同様、テスター側が理解できなかったため、尋ねたところ、説明を始めるのであるが、「教師間の名誉」などと言っている。不十分な語彙ではあったが、その後の内容の中で明らかになるかと思いきや、内容は結局主人公や教師を続けているということだけであった。これでは叙述とは到底言えない。

また、先に提示した例5では、接続表現の観点から考察したが、語彙の点でも問題が見られる。登場人物が複数人いるのだが、誰が誰をどうしたのかが「彼」「彼女」といった人称代名詞だけでなく、「男の子」「女の子」といった表現でも示されており、具体的に誰を指し示しているのか明確にされないまま用いられている。

文法や発音面での改善が必要な点がみられるのが、次の例7である。

例7) 被験者C1の内容説明

T (略) どんなストーリーなのか、私やったことないので教えてもらえますか？

C1 このゲームはなんか、うーん、背景？背景は日本の平安時代の陰陽師の安倍清明という人物像、人物からいろいろな話が出てきます(はい)。え、この化け物とか、この化け物とか、例えば、おおてんぐう【大天狗】とか、しばきどうしとか、たくさん、たくさん、

たくさんのお化け物があり、そして倒す。

T 倒す。

C1 はい。

T その、安倍清明ですか、その人はどんな人なんですか？

C1 陰陽師です。

T 何ですか？陰陽師って。

C1 陰陽師で、えっと、この昔の化け物を祓え？祓え？（祓え）うん、
そうですね、この、倒す<笑い>。

T ちょっと分かる、もう少し分かるように説明してもらえますか？祓えって何ですか？

C1 うーん、何とか、この、えーっと、化け物たちに、人間をじゃめ、
邪魔させないで、この、うーん、いろいろな手段を通して、なくなる、
ということかな。

この被験者 C1 は普段からも話し言葉で目上の人間とも話をしており、その影響なのか辞書形「倒す」で止めている。このようなインタビュー会話であれば、「倒します」のように、マス形で言うのがよい。また、「祓え」も「この昔の化け物を祓え」と言っている。命令文ではないため、ここでは本来「祓う」でよいだろう。自動詞と他動詞の間違いについても、「なくす」と言うべきところを「なくなる」と自動詞で言っている点を確認できる。文法の間違いは例 4 の C4 の発話内でも「かえたの小説」と言っており、これはまず「の」の添加による誤用、さらに「かえた」は「書いた」の誤用ではないかと推測される。不要な位置への「の」の付加は、日本語学習者の誤用に挙がってくる一例である¹⁰。

それらに加え、語彙の的確な発音にも注意を払わなければならない。例 7 にある「おおてんぐ」を「おおてんぐう」というような長音化や、以下の例 8 では逆に「ロリータ」を「ロリタ」というように、長音の短音化とみられる現象

10 『日本語誤用辞典』 p.576 では、「一生けんめい勉強したのおかげで、有名な人になった。<ドイツ>」という誤用例が挙げられている。

が確認できた。河野（2014）も述べているように、長音、促音、撥音の挿入あるいは削除は中国人母語話者の誤用としてよく見られるものである。

例8）被験者 C7の内容説明

T どんな推理小説を最近読みましたか？

C7 えーっと、ま、大体そんなに有名な小説じゃないです。なんか現実的ななんか殺人とかが起こって、なんか、犯人とかを捜す小説です、はい。

T あー、そうですか（はい）。もう少し詳しく教えてください。どういう人が出て、どうなのか。

C7 4つの事件がなんか順番に出て、最初の事件は、普通にあの、えーっと都市の中でなんか、普通の人が死んでって、最後に犯人が見つke、見つけましたけど、2つの事件が小さい子どもが犯罪した事件です。あれはちょっと、あの名作のロリタ？そういう感じです。

T ロリタ？（はい）ロリタって何ですか？

C7 11歳ぐらいの子どもが、なんか人を殺す事件です。

T あー、そうですか（はい）。へー。

C7 で、3つ目の事件もそういう感じで、(省略)。

5. まとめと今後の課題

以上のように、今回は叙述部分を題材とし、3つの観点から考察した。その結果をもとに、どのようにすれば叙述がよりよいものになるのかまとめたい。

構成面では、映画の概要（制作国・ジャンル等）を簡単に触れたのち、主人公の情報（年齢・住所・名前・性別など）や主人公以外の物語を語るうえでキーとなる登場人物の情報を述べると内容に入るまでの事前準備としてよい。そして、主人公をはじめとする主要登場人物の姿や背景を思い描ける状態になってから、主人公を中心とする話の展開を時系列で述べていくとわかりやすい。それらが定着するように繰り返し練習する内容を日本語授業に取り入れる必要がある。

接続表現の面では、順接と逆接の接続表現の使用において特に問題ない。しかし、それら以外の種類については、積極的な使用が見られなかった。普通の会話では順接・逆接だけで十分かもしれないが、あるまとまった量の叙述をするのであれば、それらだけでは順序を表す接続表現（「まず」、「次に」、「さらに」、など）の使用も有効的である。また、総括（「以上のように」、「このように」、など）も終盤のまとめにあると、内容が整理されてよい。接続表現を用いておらずとも、自然な発話は可能であるが、話がスムーズに頭の中に入ってくるかどうかは、自身で話したものを録音して聞き直してみるなど、自分の話す日本語を意識的に聞くことも一つの効果的な方法である。文法的な間違いにも気付くことになる。

語彙の面では、まずは漢字の読みを的確に身に付けることである。特に漢字圏の出身者の場合、読み方がわからなくても意味が理解できることがいくらかあるが、間違っただけでは意思疎通ができないこともある。そして、語彙は抽象的な概念を述べられるものも知っておくべきである。これは意見を述べる際にも大いに役立つが、話の概要を述べる段階で主人公の行動や言動に関わる部分でやや専門的な語彙を使用し、まとめることがある。社会的問題について意見を述べる際にも必要となってくるので、語彙のレベルも上げていくべきである。

以上の点からみても、日本語能力試験 N2 に合格している編入留学生が来日後、すぐに授業を聴講し始める現状に対処する必要があるだろう。来日後すぐに学部授業を受ける編入留学生は、授業時に発表する機会がほとんどなくやってくる。彼らの日本語の 4 技能を総合的に向上させる必要であるのは当然であるが、まずは発表時に必要となる日本語での叙述方法や話し方などを学ぶ機会を作ることが早急に必要である。

ただし、本研究では被験者が 2017 年に来日した留学生を対象としたため、被験者数が少数であり、十分な分析ができたとは言い難い。また、被験者の国籍も限定されてしまったため、KY コーパスなど公開されているコーパスをも併用し、数量的分析を行えば、より明瞭な分析結果が得られたと思われる。これは今後の課題とさせていただきたい。

参考文献

- 浅間友貴・荒巻朋子・板井美佐・太田陽子・坂本まり子・杉本ろここ・副島昭夫・田代ひとみ・野田景子・本郷智子（著）、市川保子（編著）（2010）『日本語誤用辞典 外国人学習者の誤用から学ぶ日本語の意味用法と指導のポイント』スリーエーネットワーク
- 河野俊之（2014）『日本語教師のための TIPS77③ 音声教育の実践』くろしお出版
- 小島堅嗣・山中峰央・後藤歩（2017）「OPIの複数テスターによる判定要因の分析－判定者間の信頼性向上に向けての施策－」『2017年第11回 OPI 国際シンポジウム台湾大会 予稿集』, 104-111.
- 小森万里・三井久美子（2016）『ここがポイント！レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版
- 齊藤真理子（2001）「ACTFL-OPIに見られた物語の叙述の分析－より質の高い叙述を目指すために必要なもの」『文化女子大学紀要. 人文・社会科学研究 9』, 139-152.
- 牧野成一監修、日本語 OPI 研究会翻訳プロジェクトチーム訳（1999）『ACTFL-OPI 試験官養成マニュアル（1999年改訂版）』アルク
- 牧野成一・鎌田修・山内博之・齊藤真理子・荻原稚佳子・伊藤とく美・池崎美代子・中島和子（2001）『ACTFL-OPI入門－日本語学習者の「話す力」を客観的に測る』アルク
- 水本光美・池田隆介（2002）「日本語能力試験 2 級レベルの学部留学生が抱える問題点－理工系学部留学生のケーススタディー－」『専門日本語教育研究 第4号』, 19-26.
- 山内博之（2005）『OPIの考え方に基づいた日本語教授法－話す能力を高めるために－』ひつじ書房
- 吉岡友治（2017）『文章が一瞬でロジカルになる接続詞の使い方』草思社

参考インターネットページ

文化庁 平成 29 年度国内の日本語教育の概要

http://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/nihongokyoiku_jittai/h29/（情報取得日：2018年8月21日）

日本語能力試験 認定の目安

<https://www.jlpt.jp/about/levelsummary.html>（情報取得日：2018年8月29日）

Realities and Problems of the Japanese Oral Proficiency of the International
Students from China : Focusing on Storytelling

Shizuka HAMABATA

Abstract

This study is a report on the actual Japanese language ability of the international students from China. The author focused on the Japanese oral proficiency, especially on storytelling. International students often have a problem of inadequate Japanese understanding. Therefore, the author conducted an interview test on them to find a clue to solve the problem. ACTFL -OPI (Oral Proficiency Interview) test is one method to measure Japanese oral proficiency. In this study, most of the students were intermediate level. It is difficult to maintain descriptions with sufficient quantity and quality for the high level judgment. Although they have passed the Japanese Language Proficiency Test N2 level, they lack accuracy and composition ability that Japanese native speakers can achieve without difficulty. So, we cannot conclude that the content of the story is adequately understood by the Japanese people. The author mainly considered from the viewpoint of composition, connective expression, vocabulary, and grammar.

To improve this situation, first of all, it is necessary to repeat the practice. They first tell the information of the character, and after imaging the appearance of the characters, they will describe the expansion of the story in chronological order. Next, as to the connective expression, there is one way to make them speak actively using the connective expression of the order and the summary functions. It would be advisable to record what they talk, and have them listen to it again with the help of a Japanese teacher. By listening consciously to the speech that they made them in Japanese, they

notice their misuse and artificiality, and they are also motivated to try hard to get more natural Japanese language skills. Furthermore, in vocabulary, not only misspellings of kanji but also the accuracy of reading are required. Abstract vocabulary is also required for commenting on social problems, so it is necessary for them to increase the amount of vocabulary.

For international students who take classes with Japanese students right after they come to Japan, opportunities to make a presentation in class will come soon. Of course, improvement of their Japanese language skills is necessary, but first of all, it is also necessary to make opportunities to practice to how to describe in Japanese.

Keywords : Narrative, OPI, International student, Composition